

ニュースレター

No. 33

盛夏の候となりましたが、会員の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。ご多用の中、会員各位におかれましては、支部の活動にいつもご協力とご理解を頂き、深謝いたしております。

さて、先月 6 月 1 日（土）に、東広島市の広島大学教育学部を会場に、本年度総会及び通算第 46 回の例会が開催され、熱心なご発表、質疑を聞かせていただきました。各地よりお集まりいただきました会員の皆様に厚くお礼申し上げます。また、今回、お二人の新会員をお迎えすることができましたことを会員の皆様とともに喜んでおります。

今後とも実り多い支部の活動ができますよう役員一同努力を重ねていく所存です。これまで同様に、会員の皆様の暖かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

平成 14 年 7 月

日本英学史学会広島支部支部長 松村 幹男
他役員一同

平成 14 年度支部総会及び第 1 回支部例会、東広島大会開催

去る 6 月 1 日（土）本年度総会と第 1 回（通算第 46 回）例会が東広島市で 17 人の参加者を集めて開催され、2 件の研究発表があり、実り多い研鑽の集いとなった。初日の大会のプログラムは次頁の通り。

また、午前中に行われた役員会において、以下のことが決定された。

1. 人事について
松村支部長の健康上の理由から、在任期間中は小篠副支部長が代行する。
2. 活動推進について
活動推進のため、会員各位の研究分野を集約するアンケートを実施する。
3. 平成 14 年度活動計画について
『英学史論叢』発行（5 月 25 日付）第 2 回例会について連絡があった。
4. 本年度第 2 回例会について
福山市において 12 月 7 日（土）に開催する予定となった。

日本英学史学会広島支部例会プログラム

日時 平成14年6月1日(土)

場所 広島大学教育学部 第三・四会議室(〒739-8524 東広島市鏡山1丁目1-1)

役員会 (11:00~13:00)

会場受付(13:30~)

支部総会(14:00~)

開会挨拶

平成13年度支部活動報告

平成13年度会計報告・会計監査報告

平成14年度年間計画

研究発表(14:40~)

(1)「広島大学教育学部東雲分校の英学」

広島大学

小篠 敏明

司会 元広島大学附属東雲中学校

岡田 秀昭

(2)「忘れられた英語の達人：本田増次郎・美作から世界へ」

岡山商科大学

中村 浩路

司会 ノートルダム清心女子短大

山本 勇三

研究協議

閉会行事

閉会挨拶

田中 保行

広島大学教育学部東雲分校の英学

・ 小篠敏明先生のご発表から・

学校教育学部は3年前の教育学部との統合により、現4年生の来年卒業をもって幕を閉じることになった。昭和24年学制発布に伴い、師範学校男子部(広島市東雲町)師範学校女子部(三原市)はそれぞれ教育学部東雲分校・三原分校として発足した。引き続き残られた先生、他大学、県教委、高校などに転出された先生、新しく着任された先生の思い出が懐かしく蘇る。三原分校は昭和30年代



に入って東雲分校に統合された。昭和53年には学校教育学部として教育学部が

ら分離し大学院も併置された。

この間、昭和40年代に『東雲英語研究』・『英語青年』研究社の体裁を模した・を発行して卒業生等の研究発表と交流の場を創って頂いた。卒業生対象の新刊書講読会も指導して頂いた。現在は『英語と英語教育』を通して論文等が発表されていると聞いている。

小篠敏明先生は、来年3月機関誌『英語と英語教育』最終号が発刊される機会に、特集として東雲分校の英学の歴史を何らかの形で纏めて残すことについて、中間発表の形でお話くださいました。

高橋久、五十嵐二郎、坂口昇、中谷喜一郎の各先生については、『英語と英語教育』にその略年譜・業績(著書、研究論文)が詳しく載っているが、初代の土井悟先生から、小山東一、山口鐵(鐵)雄、平賀春二、古賀穎夫の各先生の略年譜記録は大学事務局にあるが業績(著書、研究論文)の記録がないのでその情報を知らせてほしいということでした。あとで floor からご退官後の大学、そこでの業績、ご自宅などの情報や、持っておられる著書・論文をお知らせするという発信が返ってきました。

用意された資料に即して5人の先生の紹介がありました後、東雲同窓会報『不動心』最新号に先生方に習っての思い出、所感等を募集されて、同窓生から送られてきた手記のなかから5編を紹介された。

先生方から受けた温情とか、当時どうにもならぬ問題学生を排除するのでなく生かして頂いたご恩を、今、保護司をしながら社会へ少しでもお返しできたらと多数の問題少年たちと格闘いたしております、など、講義内容や授業の思い出よりもむしろ先生方の人柄に言及しているものが多いとのことでした。

小篠敏明先生は、5人の先生の経歴を紹介されるなかで、広島文理科大学、東京帝国大学、台北帝国大学、京都帝国大学出身と多彩な人材を集めていた教授組織であったこともお話になりました。

多彩な人材ということで、昭和30年代の非常勤講師木村明先生のことを一言。先生は東雲英語研究会総会によく臨席してくださいました。アメリカの大学の出身と承っているが、旧制商業学校で教えられた時の授業プリントを集大成されて『英文法』を出版された。分かりやすい本で今でも店頭で見かけられる。今は温かな方であるが、昔は予復習の指導を徹底され、木目の細かい授業と厳しい授業の先生だったと伺っている。『東雲英語研究』No. 7, 1973に「参考書と私」の寄稿があり、終わりに俳句が一首添えられている。
・ 食べられる草をおしえて孫と行き 驢人
注：驢人は Robert で先生の名前本会会員で寄稿希望者のあることを書き添えて終わります。(岡田秀昭・元広島大学附属東雲中)

参会記：文武両刀使いの国際人 本田増次郎

・ 中村浩路先生のご発表から・

中村浩路先生が「忘れられた英語の達人：本田増次郎 美作から世界へ」と題し、岡山県出身の英語の達人、本田増次郎について研究発表をされた。

本田増次郎 初めて聞く名前に??であったが、中村浩路先生の研究発表を通してすっかり彼がすばらしい文武両刀使いの国際人であったことに感動し惹きつ

けられた。

中村先生は、数多くの資料 『日本英語教育史考』(p543-p544)、『英語青年』(大正15年2月1日、同2月15日発行) 戸籍抄本(だと思います)等をもとに本田増次郎の業績をご紹介下さった。本田の出身地である岡山県久米郡中央町におけるホームページ <http://www.town.chuo.okayama.jp/swidenn/masujirou/honnda1.htm>にも詳しく紹介されている。本田増次郎は、慶応元年(1866年)11月29日 美作国久米北條郡上打穴里村に農家の三男として生まれ、当初は医者を目指していたが、明治15年 18歳の時に嘉納治五郎の門下生となり、さまざまな業績を残した。中でも、本田増次郎は教育者として第五高等学校、津田英学塾、東京専門学校等で教鞭をとり、ベルサイユ講和会議における通訳、英字新聞、雑誌におけるジャーナリストとしても活躍した。嘉納塾の教えであった「文武を抱合した大きな人間の道」を実践すべく武道だけでなく、英語においても達人であった。



最後に、主観的感想を述べさせていただくと、本田は第五高等学校、東京専門学校(早稲田大学)とラフカディオ・ハーンとの接点も多く、また、第五高等学校に勤めていた頃、ハーン作品「柔術」執筆に関与していたのではないかとこの点において多くの興味をいただいた。たしか、Palmerの教科書にもハーン作品「柔術」の一部が引用されていた。「柔術」を本気で読んでみなくてはならない、と発奮した。本田は津田英学塾においてアリス・ベーコンとの関わりもあった等、さまざまな人との交流があった本田増次郎から私の英学史の世界がひとつ広がったように思う。(鉄森令子)



『英学史論叢』発行と原稿募集について

竹中理事のご尽力により、『英学史論叢』第5号が発行されました。今年も引き続き第6号の刊行に向けて、会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。研究論考、英学史随想、英学史時評、書評等、何でも自由です。多数の応募をお願いいたします。送り先は竹中理事まで。締切は来年3月25日の予定です。詳しくは『英学史論叢』の執筆要項をご参照下さい。

研究テーマ調査について

事務局では住所録の更新と今後の例会の活性化のために、各会員の研究テーマをお寄せ頂くことにいたしました。次ページの用紙をファックス、あるいは郵便でご返送下さいますようお願いいたします。また、電話番号等を非公開ご希望の場合は、その旨お書き添え下さい。なお、E-mailをお使いになる場合は各自の様式で以下までお送り下さい。

Email: sfukaza@hiroshima-u.ac.jp (事務局・深澤清治)

会費納入について

平成14年度分の会費3,000円を郵便局の振込用紙にてご納入いただきますよう、よろしくをお願いいたします。

郵便振替口座 01360・9・43877

加入者名称 日本英学史学会広島支部

日本英学史学会広島支部事務局

〒739-8524 東広島市鏡山1丁目1-1

広島大学教育学部英語文化教育学講座内

深澤 清治

電話・ファクス (0824) 24-7058

E-mail: sfukaza@hiroshima-u.ac.jp